

令和5年度 学 校 評 価 書

学校名	北海道白糠高等学校 全日制課程
-----	-----------------

1 重点目標

- 新学習指導要領に向けた指導と評価の充実、並びに基礎・基本の定着と学習習慣の確立に努める。
- 生徒の主体的な自己管理能力を高め、望ましい基本的生活習慣の定着に努めるとともに、家庭・地域と連携しながら生徒理解に努め、自他の生命を尊び自立心と他を思いやる心を保つ生徒を育成する。
- スクール・ポリシーに基づいたキャリア教育を行い、主体的に進路を選択しながら地域の未来を創る生徒を育成する。
- 健康・安全についての理解を深め、自他の生命の尊重と安全・環境への意識の向上に努める。

2 経営方針

- 「スクール・ミッション」達成に向けた取組の推進
 - 町内外の教育資源を最大限活用し、生徒の力を最大限引き出すプロジェクトを構築し、全国から行きたいと思われる学校を目指す。
- チーム白糠の体制確立
 - 保護者や地域社会から信頼され、積極的に学校運営に参加したくなる、真に「社会に開かれた学校」とするために、効果的な情報発信や連携・協働を推進する。
- 働き方改革の推進
 - 個々の能力に応じた業務の平準化を図り、実感できる改革を推進する。
- 教職員研修の充実
 - 校内外の研修の積極的推進、人事評価シートの活用等により、教職員のスキルアップを図るとともに、生徒に積極的に主体的な学びに取り組む姿勢を見せ、範を示せる教職員集団を確立する。

3 自己評価結果について学校関係者評価実施

○自己評価の達成状況・適切さの欄は（「A=十分である」、「B=概ね十分である」、「C=不十分である」、「D=改善を要する」）を示す。

○右の欄、学校関係者評価：自己評価の適切さの欄は、

（「A=適切な評価である」、「B=概ね適切な評価である」、「C=評価がやや不十分である」、「D=改善を要する」）を示す。

○右の欄、学校関係者評価：改善に向けた取組の適切さの欄は、

（「A=適切な取組である」、「B=概ね適切な取組である」、「C=取組がやや不十分である」、「D=改善を要する」）を示す。

※青い部分が教職員による自己評価結果等、黄色い部分が学校関係者評価結果である。

※学校関係者評価は評議員により実施。

分野 領域	重点的な取組内容（上段）	自己評価		改善の方策	学校関係者の評価		
	評価指標・評価基準（中段）	達成 状況	取組の 適切さ		自己 評価 の適 切さ	改善へ の取組 の適切 さ	意見
	具体的取組の状況（下段）						
学習指導 の改善・ 充実	基礎基本を徹底し、わかる授業の実践と興味を引く授業作り に努める。	B	B	生徒の理解力に応じた適切な指導ができて いるかを振り返り、必要に応じて、複数の 教員が協力して授業を行い、生徒の意 欲・関心を高めるための授業展開を立案し ていくことが必要である。また、支援が必 要な生徒への関わり方、指導のあり方につ いて研修機会を増やしていきたい。	3.1	3.1	○迅速での スタディ・サ プリの活用が 非常に良い取 組みである。 今後も継続し てほしい。
	生徒による授業評価アンケートの「授業がわかりやすい」 「授業に興味関心を持ち、もっと知りたいと思う」の項目 で、肯定の回答80%以上達成。						
	授業評価アンケートにおいて、上記項目で肯定の回答が9 4.8%・81.6%と達成できている。	2.9	3.0				
	観点別評価の充実及び生徒の学習姿勢の確立に努める。	B	B	生徒の中で「どのように勉強したらいいか がわからない」という発言があった。日頃 から、各教科で、勉強の仕方を教えたり、 簡単な宿題を出して、家庭学習の機会を増 やしたりすることで、学習に取り組む姿勢 を確立していきたい。	3.1	3.1	○授業での取 組が家庭学習 へと繋がるよ う、声かけや 宿題等の工夫 をしてほしい。
	成績上位層の増加、成績不振者減少。授業評価アンケート の学習習慣に関する項目で、肯定回答80%以上達成。						
1・3年生の成績優秀者がそれぞれ67%以上、2年生は 年間を通して減少傾向にある。	2.9	3.0					
保護者 ・地域へ の情報の 発信	保護者・地域・関係機関と交流を深め、特色ある教育活動 の展開を行い、外部発信を行う。	B	B	各学年で、保護者等との面談の期間を設け たり、コミュニティスクールの協力を得た りすることで、保護者等や地域との交流を 深める機会を増やす。また、学校の様子や 何も無い日々の授業風景などを積極的に HPや本校のSNSに更新していきたい。 一方で、町内会の回覧板や町内の放送等 で情報発信を行い、これまで以上に地域の 協力を得ていきたい。	2.9	3.0	○生徒さん達 との接点は、 清掃活動、歌 壇づくりだけ でした。 ○小4の孫娘 は、市内の学 校祭巡りをし てしまっ たが、残念な がら白糠高校 の評価は低か ったです。
	ホームページアクセス数 年間7万回以上（月6千） ホームページ更新回数 90回以上（月8回） 地域交流・地域行事・小中高連携 年間10回以上						
	アクセス数 月平均6千以上、更新回数 89回（R6/1/22 現在）各教科において、地域連携を積極的に実施。	3.1	3.0				
PTA活 動の活発 化	PTA活動の活性化、推進に努める。	B	B	絶対的な保護者等の数も減少している中 で、PTA 役員を中心に、研修会等の参加 者が多く、行事等にも積極的に協力して もらっている。しかし、連絡が行き届いて いないことがあるため、連絡方法を複数 の手段にするなどの工夫し、PTAの活 性化を図りたい。また、オンライン等 で行事の様子を配信し、次回以降の 現地参加者数の増加に繋ぎたい。	3.6	3.4	
	PTA活動参加者 保護者 各10名以上。 教職員 各10名以上。						
	PTA総会・役員会・学校祭模擬店・PTA研修会（そば 打ち体験）の実施。参加保護者は10名以上。	2.9	2.9				

分野 領域	重点的な取組内容（上段）	自己評価		改善の方策	学校関係者の評価		
	評価目標・評価基準（中段）	達成 状況	取組の 適切さ		自己 評価 の適 切さ	改善への 取組 の適切 さ	意見
	具体的取組の状況（下段）						
組織的・ 計画的進 路指導の 充実	（進学）生徒に対して志望校合格のための適切な指導と情報提供を行い、公営塾などと連携し、第一志望校合格と進学後に必要な学力を身に付けさせる。学習目標を早期に定め、学びに向かう力を育み、個に応じた指導を充実させる。	A	A	<ul style="list-style-type: none"> 推薦や総合選抜など本校の教育活動の特徴を生かした進学実績を今後も伸ばしていくために、キャリアパスポートを定着させる。 キャリア行事を通して、早期の進路目標を設定させ、学校生活の充実を図る。 公営塾や外部機関と連携し、進学指導を充実させる。 	3.9	3.9	<ul style="list-style-type: none"> ○単身赴任の方が多いことや、PTA以外には先生方との接点はほとんどないことなどが背景にあって、評価そのものが難しいです。 ○社会とのつながりを意識できる取組をさらに増やし、早期から進路目標を設定できる工夫を。
	進学決定率100%	3.5	3.4				
	（就職）社会的・職業的自立に向けて必要な基盤となる資質・能力を身に付けさせるとともに、望ましい働き観、職業観を育成する。個に応じた就職指導を展開し、生徒が主体的に取り組む力を身に付けさせる。地域協働応援団（コンソーシアム）や関係機関、保護者等と連携し、生徒に対して適切な指導と情報提供を行う。	B	B	<ul style="list-style-type: none"> コンソーシアムを活用し、キャリア行事のブラッシュアップを行う。 キャリア行事を通して、早期の進路目標を設定させ、学校生活の充実を図る。 公営塾や外部機関と連携し、就職指導（公務員模試や就職講座）を充実させる。 	3.3	3.3	
	就職内定率100%	3.1	3.0				
自立心を 育てる指 導の徹底	Q-Uを活用し生徒理解のためのスキル向上に努める。外部機関（スクールカウンセラー、サポステ、白糠看護学校）と連携して適切な支援を行い、教育相談の充実を図る。	B	B	<ul style="list-style-type: none"> Q-Uテストは次年度も引き続き実施し、分析を行い生徒理解に努める。 PT制度を活用して教員個々の課題にアドバイスをもらい、教育相談に活かす。 スクールカウンセラーとの面談を通じて学校生活に前向きに取り組むことができるようになった生徒もいる。 	3.3	3.4	
	Q-Uアンケートを年間2回以上実施 教育相談に関する校内研修の実施	3.1	3.1				
	<ul style="list-style-type: none"> 5月と2月にQ-U実施。 6月に過去の実例をもとにQ-Uの分析と指導への活かし方について校内研修を実施した。 						
基本的な 生活習慣 マナーや モラルに 関して組 織的な指 導体制の 確立	基本的生活習慣（あいさつ、言葉遣い、身だしなみなど）の確立に向けた指導体制の構築。情報共有の徹底。できる指導、理解させる指導の実践。	C	C	<ul style="list-style-type: none"> 現在は基本的生活習慣（あいさつ、言葉遣い、身だしなみなど）が身に付いている生徒が多く、多少活発になって軽い声かけで改善でき、学校全体が良い方向へと向かっている。継続した指導を実践していきたい。一部、基本的生活習慣が確立されていない生徒に、具体的に出来ないことなどのような不利な点も認識させ、自覚ある行動に繋げる 	3.6	3.3	
	自己指導力の向上が見られたか	2.7	2.6				
他者を思 いやる心 と道徳心 の育成	通信や集会、講演会等を活用し規範意識を育て、SNSの正しい使い方を身につかせ、誹謗中傷やいじめといった問題行動を招かないよう未然防止に努める。いじめ把握のためのアンケートを年間2回実施。	B	B	<ul style="list-style-type: none"> 今後も積極的ないじめの認知を行い、認知した上で対象生徒の実状に合わせて個別指導を素早く行い、解決に努めるとともに、教員間での情報共有を密にし、指導に齟齬が出ないような体制作りを行う。 未然防止のため、いじめの兆候や情報提供がほしい。速やかに対策委員会を開会し、情報共有と対策を検討する。 	3.4	3.6	
	積極的ないじめの認知 いじめのない学校生活が送れているか	3.0	3.1				
教職員の 「働き方 改革」に 向けた方 針等	<ul style="list-style-type: none"> ○学校閉庁日、定時退勤日、部活動休養日の設定。 ○会議や打合せの回数・時間の短縮。 ○業務の平準化・効率化に関する業務改善、健康安全管理の実施。 	B	B	<ul style="list-style-type: none"> 朝の打合せについて、次年度も引き続き週1回を原則として行う。 職員会議の内容の精選を図る。（周知程度、前年度整理は基本的に朝の打合せへ） 授業時数と照らし合わせながら短縮授業や授業カット等の工夫をし、余裕のある会議日程の設定を行う。 2分掌体制による業務の平準化、効率化を図る。また、次年度当初の分掌計画に縛られず、運用する中で柔軟に業務の振り分け及び相互協力を進める。 管理職を中心とし、年休取得等がしやすい職場環境作りを進める。 	3.1	3.4	
	<ul style="list-style-type: none"> ○学校閉庁日の設定（年間9日間） ○定時退勤日の設定（月2日間と定期考査期間） ○部活動における休養日の設定（年間73日以上） ○年休取得率の前年度比増 						
	<ul style="list-style-type: none"> 定時退勤日を原則第1・3金曜日と定期考査期間に設定し、行事予定に合わせて柔軟に対応。 学校閉庁日を年間9日間設定。 後期より朝の職員打合せを週1回にし、合わせて職員会議のペーパーレス化を図った。 年休取得率は、前年から大きな減少は見られない（取得率40%前後）が、朝の打合せのない日や時間差に合わせて時間年休を取得するなど、各教職員のスタイルに応じた働き方が少しずつ進められている。 	3.3	3.3				

※学校関係者評価は学校定評議員によって行う。記述部分は抜粋及び要約をしたものである。

学校関係者の評価は、評価平均値により次の評価基準によってA～Dの評価面をしている。

評価基準（1≦D<2.3 2.3≦C<2.9 2.9≦B<3.4 3.4≦A≦4）